



「ホーム第1宮領」が開設しました

本年四月に社会福祉法人平成会で八番目となるグループホームが開設しました。

このグループホームの名称は、地域に根差したグループホームにしたいとの思いから、地名を取り入れ「ホーム第1宮領」と決定しました。

全部で七部屋ありますが、そのうち三部屋は将来一人暮らしを目指す方のためにキッチンやバス・トイレを備え、自立した暮らしを模擬体験できるようにしています。

実際に一人で生活すると様々な課題や問題点が出てくると考えられますが、この部屋で生活する中で出来るだけの経験をしてもらい、浮上した課題について職員と一緒に解決方法を見つけ、場面に応じた対処ができるスキルを身に付けたいと思います。そして、成功体験を積み重ねた後、自信を持って一人暮らしへとステップアップ出来る事を目指しています。

既存のグループホームを含め、地域の皆様にはご迷惑をお掛けすることもあると思いますが、当法人の取り組みをご理解いただき、障害のある方の地域生活を応援していただければ幸いです。



自炊が出来る部屋

グループホーム
主任支援員 松井 茂雄



あおぞら工房

新しい施設外就労

平成二十八年八月より、東広島市高屋町の工業団地内にある広島精研工業(株)内で作業(施設外就労)を行っています。

この二月より、「施設外就労」の新しい仕事が始まりました。作業内容は、塗装前の自動車用部品を塗装用ハンガーに掛ける仕事です。

これまで空容器を選別する作業をさせていただけでしたが、仕事の実績を認めて頂き、この度の作業に繋がりました。暑い日も寒い日もコツコツと真面目に仕事をする事で信頼を勝ち得たことを大変うれしく思います。

これからは、将来の就労を目指す利用者の経験の場として、一人でも多くの利用者によるこの作業をもらい、仕事のスキルを高めてもらうようにしていきます。慣れない作業で戸惑いもあるようですが、利用者から「大変ですけど、頑張ります。」と、職員が勇気づけられる言葉も聞いています。この作業を通じて、企業と利用者がお互いに支え合う関係になれるように職員がしっかり橋渡しをしていこうと思っています。



新たな作業に取り組む利用者さん

あおぞら工房
支援員 上川 博人

デイセンターこだま

こだまのテーブルは笑顔が見える

デイセンターこだまでは、台形のテーブルを二つ合わせにした六角のテーブルを使用しています。このテーブルは介護の現場で「笑顔の見えるテーブル」として評判があり、こだまでは開所時から取り入れていました。

六角形の辺が一人ひとりの占有スペースとなり、隣の人を気にせず落ち着いて食事や作業ができます。隣席とやや斜めの位置関係となり、近すぎず遠すぎない自然な距離感が生まれ、わきあいあいと和やかな雰囲気を作り出しています。介助を行うときにも、真横や正面でなく、斜めの位置から自然な関わり方ができます。組み合わせによってはいろいろな形になるのでおもしろいテーブルです。

こだまは、平日週五日開所しており、ほぼ毎日顔をあわせています。おかげさまでこの生活が開所以来、九十年になりました。



笑顔の見えるテーブル



デイセンターこだま
支援課長 浅野 正道

いつもいつも正面から向き合うだけでなく、時には隣でそっと寄り添い、時にはしっかりと近づき、ちよūdよい距離感でみなさんが心地よく過ごせる居場所となるよう心がけてきました。そんな思いがこのテーブルにも形として表れているような気がします。

そしてこれからも、こだまをみなさんおひとりおひとりの存在が輝けるような場所にしていきたいと思います。

放課後等デイサービス

夕風

「卒業する方たちへ 私たちができる事」

Aさんが夕風に来た当初、何をすれば良いか分からないでいました。私たちはAさんに分かりやすいように絵や写真を使って行動を伝えました。今では絵を順番に揃えるとか自分で理解し順を追って活動することが出来ます。Bさんは掃除の仕方が分からないでいました。ゴミに見立てた新聞紙を置いてゴミを分かりやすくすると、ホウキでゴミが掃けるようになりました。しかし夕風の中で活動ができて意味がありません。彼らはいずれ学校を卒業し社会へ出るのです。

この春、夕風利用者の中で学校を卒業して社会へ出る方が7名います。「こうすればできる」「これは苦手だけどこれは得意」といった事を伝えていけば、これから始まる新しい環境の中でも困ることなく生活していく事ができます。困らないは安心に、できるは自信となり大きな成長へと繋がります。卒業していく人たちのもとへ私たちが向かって行って支援の手掛かりを伝える事、次に繋げていく事、それが夕風の役割の一つだと思います。卒業される寂しさの中、彼らのこれからの活躍を喜びに変えて笑顔で卒業生をお送りしたいと思います。

放課後等デイサービス 夕風
児童指導員 堀川 勝彦

「パンづくり体験で大喜び」

一月二十六日(木)三原特別支援学校で取り組まれている「キャリア教育将来の就労に向けた知識・技能及び心構えを身につけるため」の授業に、昨年に引き続き講師として招かれました。

はじめに、生地を分割を見てもらい、「自分でやってみたい人」と声をかけました。「やりたい」という手は挙がりませんでした。しかし、先生の後押しもあり一人の生徒さんがチャレンジして生地を五〇gずつ切り分けることができました。そして、できたらみんなで拍手をすることを繰り返していきうち、九名全員が自分から手を挙げて取り組むことができました。あんどやクリーム等を包み込み、チョコペンで好きな絵を描いてもらってパン作りを終えました。その後、パンが焼きあがると、みなさん大喜び。



その場で「おいしーい！」と食べる生徒さん、家族に見てもらうからと持って帰る生徒さん、「おかわり下さい」と笑顔で手を出す生徒さん。

パン作りの授業を通して、物を作る楽しさと自分から何かをやってみたい気持ち芽生えたらうれしく思います。

あおぞらパン屋さん
主任支援員 武田 洋美

多機能型事業所あさひ

私の夢

あさひでは、員作業やカナフレックスでの作業、厨房で調理などをしています。

その中でも私は、アラハタのシャムテッキで掃除を一番頑張っています。理由は、丁寧に清掃するのが好きだからです。

グループホームあさひでは、職員さんと一緒に料理をしています。包丁で野菜を切ることができるようになりました。あさひでもらったお給料は貯金しています。好きな本やCDを買いだいです。将来は、厨房の仕事に就きたいです。理由は、血洗いや包丁で野菜を切る仕事をやってみたいからです。仕事を頑張ると、今は迎えに来てもらっているお父さんに、車で会いに行つてびっくりにさせたいです。



夢に向かって練習中



三角折れ上手になりました

宮下 薫

宮下さんは、昨年の三月に特別支援学校を卒業後あさひグループホームに入居、四月より就労移行事業所を利用しておられます。あさひに来られた当初は横断歩道を渡ることさえ不安で、一人で買い物にも行けませんでしたが、その後度々支援員と一緒に掛け、今ではひとりでのスーパーまで買い物に行けるようになりました。昨年の秋には一人でバスに乗って、以前入所しておられた施設の祭りへ参加されるなど、この一年間で様々な体験を通して行動範囲も広がってきました。

他の利用者さんと、笑顔で話している様子を見るたび、これからはたくさん経験を重ね、自信を持って一般就労に臨めるよう、精一杯支援をしていきたいと思っています。

多機能型事業所あさひ 支援員 塔迫 里美

あおぞらパン屋さん